

種名	<u>ルリビタキ</u> <u>Tarsiger cyanurus</u>													
														
分類	スズメ目ヒタキ科ツグミ亜科													
特徴	背中のるり色と脇腹の橙色のコントラストが鮮やかな森の鳥。ユーラシア大陸の亜寒帯とヒマラヤ山地で繁殖する。日本では北海道、本州、四国の高い山で普通に繁殖し、冬期は山麓、丘陵や暖地に移動する。													
生活	繁殖期は亜高山帯の針葉樹林に棲息し、個体数の多い鳥である、5月から8月頃まで、シラベ、コメツガなどの林を歩くと、さえずりを至る所で聞くことができる。林の下層で行動するが、下枝にとまって地上を見張り、昆虫やクモを見つけると舞い下りてそれを捕まえる、という採餌をすることが多い。つがいで縄張りを持ち、木の根元や崖の凹みなどの地上に椀形の巣をつくる。													
声	繁殖期には、オスは木の枝先にとまって「チッチーチチロチー」というような明るい調子の良い声でさえずり続ける。なお、個体によっては尻上がりに鳴くことがある。朝早くから夕方遅くまでさえずる。地鳴きは「ヒッヒッ」とか「グワッ、グワッ」という。													
見分け方	脇腹の橙色と尾の青色は、雌雄、成鳥若鳥ともにみられる特徴。幼鳥でも尾は青い。													
時期	(月)	-	-	-	4	5	6	7	8	9	10	11	-	
その他	全長(L)14cm 翼開長(W)22cm													
参考文献：山溪カラー名鑑 日本の野鳥														